



芝小だより

第六月号

教育活動再開にあたり

校長 齋藤 幸之介

五月の下旬は気温が下がり、肌寒さを感じることもありました。

一年前の運動会があまりに曇り、皆様には多々の御迷惑をおかけし、また厳しい御意見も頂戴したことを想起しております。運動会担当の委員会では昨年度より改善策を考へてもあり、皆様に改めて御意見をいただける、と思っております。同時に、「このくらい涼しければ子供たちも動きやすかったであろう」と思ったほどです。グラウンドを見ては大いに活躍をしておいたであろう子供たちを思い描き、ふとため息をついている自分に気付きました。

令和元年度卒業式及び修了式、令和二年度入学式及び始業式は行えましたが、三月から始まった臨時休校は五月末まで継続となりました。私が教員になった頃のある先輩教員の言葉が思い出されます。「校舎があつて子供が通つてきて初めて学校」。

この三か月、校舎内の空気は固まったままでした。子供たちが学校を動かしていた、そんなことを今更ながらに感じていました。そして、子供たちが登校してくる、という当たり前のことが奪われたとき、改めて、日常を淡々と生活できる有難さを感じておりました。今までは子供たちに直接伝えることができ、また子供たちや保護者の方々の求めにも直接御対応することができました。しかし、それが叶わなくなったことが時間の経過と共に一層重い課題として感じられるようになってまいりました。

言い訳のつもりになりますがお許しくださいませ。

当初は四月末、あるいはゴールデンウィーク明けには登校できる

発行所 港区立芝小学校
〒105-0014
港区芝 2-21-3
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)
[FAX:03-3456-3071](tel:03-3456-3071)

であろう、と予測しておりました。教務担当教員が業者に強く要望し、一年以上の子供たちには家庭学習用のドリルを配布することができました。しばらくは何とかなるであろう、と考えておりました。しかし、休校期間が延長される、と言われるようになり、私も「学びを進める」ことを求めるようになりました。教科書の活用の仕方、また学習予定についてはできるだけ詳細にお示しをしたつもりでありましたが、しかし、保護者の皆様には十分に御理解をいただけなかったかと、反省をしております。その後、徐々にではありますが、動画を配信することもできるようになりました。子供たちの学習の一助になっていけば、と思っております。

保護者の皆様には、計四回の課題提出のために御来校いただきました。私の薄慮故、他に適切な方法を見出せず、皆様には多大なる御迷惑をおかけいたしました。御陰様をもちまして、子供たちの学習成果の把握と働きかけができたと考えております。ありがとうございます。

一方で、新型コロナウイルス蔓延を御心配になり、またお忙しいことも配慮せずに私の一方的なお願いになったことで不安や不満等を抱かれたかと認識しております。ここにお詫びを申し上げますとともに、今後は新たに開設されましたメールを始めとする手段を検討するなど、様々な手立てを講じられるよう考えてまいります。

さて、今回の臨時休校で、学校教育のあり様が様々な観点から問われました。オンライン授業から始まり、九月入学までの幅広いことと私は大いに混乱をしたのが確かなこととなります。特に、オンライン授業については、過去二年間タブレット端末を活用してきたにも関わらず、ここに至らなかつたことを大いに反省をしております。

です。今後ますますに御対応ができずに申し訳ございませんが、学びが滞らないようにしていきたいと思っております。

私の拙策にも関わらず、本校教職員は知恵を絞り、様々な工夫をしてきました。動画の配信の機会も有効に活用するようになりました。この機に改めて教科書を何度も読み深め、今年度より施行される「新しい学び」のあり方を模索し、そして提示しました。また、数名の教員はMINATOX TEACHERS CHANNELSの作成にも携わりました。少しでも港区立小学校の子供たちのために、と努力する姿がありました。この程度では、とお叱りを受けるかもしれません。しかし、校長として、子供たちのために必死になる全教職員の姿があったことを、僥倖ながらお伝えしたいと思っております。

先日安倍晋三首相は緊急事態の解除を伝え、これを受けて本校は本日より教育活動を開始いたします。久しぶりの登校に、子供たちは戸惑つていしょう。本校の校内がどのようになっているのかすら分からない一年生には不安に思わせることとなります。一方、六年生は卒業までの時間を思い描きながら、様々な感情を抱くことと思います。また、当面は分散登校になりますから、一定にならない生活リズムへの対応に御不便をおかけするところにもなります。

しかし、子供たちは学校に帰ってきました。私共教職員一同は、改めて子供たちの姿に希望をもち、そして確実に進んでいきたいと思っております。ある学年だよりにもありましたが、何度か申し上げている「Festina Lente」-Φ<Vの急な>を忘れずに子供たちと共に日常を創っていく所ね。

皆様には引き続き御不便と御迷惑をおかけしますが、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。